

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2993100029		
法人名	有限会社 やまびこ		
事業所名	グループホーム かりゆしの郷		
所在地	奈良県北葛城郡上牧町下牧1-980-6		
自己評価作成日	令和3年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2993100029-006&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	Nネット
所在地	奈良市高天町48-6 森田ビル5F
訪問調査日	令和3年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりの生活ペースを大切にしたい関わりを心掛け日々のケアに努めております。居室担当職員が決まっており、入居者様のご要望だけでなくご家族様の要望も参考にさせて頂けるよう日々のコミュニケーションを大切にしています。入居者様、一人ひとりの状況に、全職員が配慮し、できる限り自立した生活をより長く送るため、掃除や洗濯物をたたんだり食事の準備や後片付けなど身の回りの事をご自身で頂き日常生活そのものがリハビリになるよう工夫しています。コロナ感染対策で家族様の面会禁止やボランティア団体の来所をお断りしていることから、施設周辺の散歩や施設玄関前の駐車場に椅子を並べての外気浴や体操を楽しむなどストレスがたまらないよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、上牧町のどかな住宅街にあり、同じ敷地内にデイサービス、訪問介護・訪問看護事業所、居宅介護支援センターなどが併設されている。法人の「尊重・安心・満足」の理念のもと、利用者一人ひとりの個性を尊重し、楽しく安心した生活を提供できるよう取り組んでいる。また、生活リハビリにも力を入れ、自分の力で長く健康的に生活できるよう支援している。町や地域包括支援センターとのつながり、地域とのつながりも大切にし、キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座の企画・開催をする活動を行っている。「かりゆし」とは沖縄の方言で、「めでたい」、「縁起がよい」という意味で、利用者がゆったり笑顔で過ごせるよう努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊重」「安心」「満足」を理念として、事業所出入口やフロアに掲示し、常に職員の目に入る環境にしている。また、毎朝の申し送り時に理念の唱和を行ない、理念に基づいたケアを心掛け、安心してその方らしい生活が出来るように取り組んでいる。	法人理念の「尊重・安心・満足」を、毎朝申し送り時に唱和している。利用者一人ひとりの個性を尊重し、安心して生活して頂けるようサポートしている。利用者に対する言葉遣いで不適切なことがないよう、その都度注意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大の影響で地域の大掃除への参加や地域の方々を招いての当施設での行事なども中止となり連携を図ることが難しく、積極的に対外に向けての呼びかけが出来なかった。散歩の時に地域の方々とは挨拶交わす程度しか出来なかった。	自治会に加入し、広報も回ってくる。コロナ禍前は、年2回のクリーンキャンペーンにも職員が参加していた。職員がキャラバンメイトして活動しており、先々月もドラッグストアのスペースにて受講者10名で開催した。コロナ禍でもホーム周辺を散歩し、近隣の方と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上牧町が行う、認知症の方をサポートする会議や連絡会に参加している。コロナ感染の状況を見ながら地域連携課と相談しながら企業や職域団体への認知症講座を開催した。引き続きキャラバンメイトとしての活動を行い、認知症ケアサポーターを地域に増やす貢献をしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策として民生委員・自治会長・家族の参加を頂かず役場の地域包括の方と2か月に1回の会議を開催。入居者様の生活の様子等の報告や困っていること等を相談し、頂いたアドバイスを参考にしている。	コロナ禍でも運営推進会議を、町役場の生き生き対策課職員、地域包括支援センター職員が参加して2ヶ月に1回開催している。事業所の活動報告や行事予定などを行って意見交換している。来月1月は、家族、自治会長、民生委員も交えて開催予定を進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際は連絡し、毎回役場・地域包括から最低1名は来ていただき、現状の報告及び連絡・相談をさせていただいている。	町役場と地域包括支援センターへは、事故報告、困難事例の相談、介護保険更新手続き、運営推進会議への参加依頼と議事録提出などを行っている。現在、生活保護の方の入居はないが、地域包括支援センターからの依頼で、緊急に生活保護の方を短期滞在で受け入れたことがある。町役場から認知症サポーター養成講座の開催依頼もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社の年間研修において、毎年事業所の課題として取り組んでいる。現時点で一人拘束している方がおられるが、毎月全職員で継続実施等の評価を行い廃止に向けて取り組んでいる。県の指導により玄関の施錠を行っている。	現在、身体拘束1例、尿道にバルーン装着されていて、自身で抜去しようとする方に、やむを得ずつなぎ服と車椅子ベルト、就寝時のベッド4点柵を行っている。家族に説明し、同意書を頂いているが、毎月末職員で話し合い再検討を行っている。玄関の扉は、消防署からの指導で施錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて、虐待防止の研修を実施している。また、管理者がスタッフが気持ちよく働ける環境を目指し努力することで、虐待が起こりにくい環境づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護は研修の中で取り上げられるため、表面上は知っているが、深く理解するには難しく、資料を読む等にとどまっている。1Fに後見人制度を利用中の方がいらつしやり、日々後見人の方とのやり取りは行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、契約書及び重要事項説明書を文書を提示しながら、口頭で全て説明させて頂いている。疑問や不安は契約時に伺った上で、いつでもお電話を下さいと伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見は日常生活の関わりの中で聞き取りを行っている。ご家族様の意見は来所時やプラン更新の時に伺い、職員に伝達し業務の見直しに反映させている。	家族の意向は、介護計画変更時や用件の連絡時に電話で聴取している。利用者との日々の会話の中で、食べたい物、行き先、家族へ電話したい等の意向を聴き、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見や想いは、業務の中やミーティング(月1回)から汲取り反映、また必要なものに関しては本社事務長に報告、相談し入居者が暮らしやすくスタッフが働きやすい職場作りを行っている。	運営に関する職員の意見は、できるだけ早急に対応している。残務があっても定時での終了や休憩時間の確保など、働きやすい職場づくりを目指して取り組んでいる。管理者は職員それぞれニーズが違うことも認識し、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者やスタッフと「報・連・相」や声かけをしている。個人面談等もあるが、代表者もミーティングに参加し、思いや意見交換等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画に基づいて全体研修を行っている。また、会社指示や希望者に対して、法人内外の研修を提案し、参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が地域の医療機関、事業所との連携に努めている。コロナ感染の影響で他事業所への訪問は控えているが状況を見て見学や行事の参加等を通じ、交流の機会を設け学びの場とし、サービスの質の向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者が最初に話を伺い、事前の情報はスタッフに全て伝えた上で、初期は特に日々の小さな事もしっかり観察し耳を傾け、声かけや援助を行う事で、極力早期に安心して生活していただけるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の窓口は管理者やリーダーになるが、スタッフとご家族との関係づくりにおいても、信頼関係を築けるよう、担当職員を決めている。ご家族との関係が良好であってこそ、入居者様に穏やかな日々を送って頂けると考え努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご本人及びご家族の希望や願いを含めたい等を伺い、「その時」必要とされているサービスを提供出来るよう取り組んでいる。また、場合によってデイケアの利用やリハビリ・訪問看護等のお声掛けもさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的なことでは掃除・洗濯・買物・食事の盛り付け等を共に行って頂き、家事活動等が難しい方には、その方に合った活動や役割を持って生活して頂く中で、「共に暮らす」ことを意識した関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様も、入居者様の穏やかな生活を共に守る仲間と認識し、ご本人に1番良い方法を相談しながら探ると共に、行事等も入居者様と一緒に楽しんでいただけるよう、絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出レク等で可能な限り生活されていた思い出の場所周辺へ行くよう努めてきたが、コロナ禍の中、外出する事が難しくなった。ストレスがたまらないように外気浴や施設周辺の散歩の機会を増やした。また家族様との面会も禁止されているので電話で元気な声を聞いて頂き、入居者様、ご家族様に安心して頂けるよう努めている。	コロナ禍のため、家族との面会は、1階の利用者は窓越しに、2階の方は窓越しや電話で話してもらっている。アクリル板を挟んでの対面面会の実施を検討中である。家族からプレゼントが届くと、電話し利用者と話してもらう。利用者の近況報告と写真を職員のコメントを、添えて毎月家族に送っている。家族に当てた年賀状づくりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯干しや洗濯たみ・ごみ箱作り・季節ごとの壁紙作り等の作業を複数人でして頂く中で、入居者様同士が協力しながら・補い合いながら行えるようスタッフが支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去、在宅に戻られた方や、入院後退居された方のご家族から相談を受けたり、必要に応じて支援に努めている。またお亡くなりになった方のご家族より何かお手伝いする事があれば遠慮なく言って下さいとご連絡を頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員は入居者様の想いや生活での望みや困りごと等を聞く機会を作っている。想いや気づいた事を送りノートを活用する事で、職員間で共有し改善出来るように努めている。	前回の外部評価結果を参考に目標達成計画を作り、よりその人らしさを把握するため、生活歴、人柄、好きなこと、得意なことを聴き取るための記述欄を増やした。居室に持ち込む物品は、利用者の思いに添って持ち込めるよう支援しており、仏壇やコタツ等を持って来る方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表に、変更事項や新しく得た情報を書き込み、1年毎の更新の度に前アセスメント表にはなかった情報が組み込まれる形を取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の希望や願いを載せたケアプランを中心に、日々の様子や観察結果をケース記録に残したり、申し送りなどで現状を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員より入居者の生活状況から気になる点やプランに入りたい内容をもとに他の職員からそれぞれの意見や改善案等を収集。ご本人、ご家族の思いも含め、収集した情報を反映したケアプラン作成に努めている。	介護計画は、利用者や家族の思いを参考に作成し、3か月ごとにモニタリングし、原則半年ごとに更新している。計画更新前には、利用者や家族の意向を伺っている。身体面の支援だけでなく、花壇の朝夕の水やり、脳トレ計算、編み物など、利用者の好きなことを介護計画に盛り込んでおり、家族がより楽しみが広がるような関りも起こっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施チェック表や記録の記入の仕方等も工夫し、情報の共有をスムーズに行えるよう心がけ、日々のケアに活かしている。計画作成担当者は定期的に実施状況を確認し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内外部からのボランティアによるイベントや、個別レクとして誕生日は好きな所へお連れし、好きなことを楽しんでいただく等の取り組みを行っている。しかしコロナ感染の状況により現在は実施出来ないが密にならないように人数制限しながら戸外でのレクを計画し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	往診(内科・歯科)・訪問理美容は毎月行っている。受診が必要な入居者には地域の病院を受診している。近隣のお店や公園等を把握し、外食や外出支援・個別レクに活かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後は、ほとんどの方が当施設の往診医に変更を希望されている。かかりつけ医を継続される方ともに、ご家族やかかりつけ医と綿密にかつスムーズに情報交換を行い適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医が2週間に1回訪問診療を行っている。利用者個々のかかりつけ医の往診も受け入れている。月1回歯科医と歯科衛生士が訪問し、義歯調整と口腔ケアを行っている。泌尿器科、精神科の外來受診をされてる方もいる。また、看護師が週2日勤務し、健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、週に2回8時間の勤務を行い、週5日はオンコール対応としている。入居者の健康管理及び、日々のケアの中での情報や気づきの報連相が適宜行えており、入居者様も、様々な場面で頼りにされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のご家族や病院とも連携し、情報交換を行っている。ご家族へは入院中にも連絡をしたり、お見舞いに行くことで、ご本人やご家族の希望や想いを伺ったり、対応させて頂いている。また、病院側とも連携が取れる関係作りを、法人あげて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約書類の中に『重度化した場合にかかる医療体制指針』と『看取り介護にかかる指針』を組み込んでおり、入居時に説明及び同意をいただいている。実際に体調の変化がある際には、関係者にこまめに状況を情報共有しチームで支援に取り組んでいる。	重度化対応と看取りの指針を作成し、入居時に利用者や家族に説明して同意書を頂いている。重度化したときは再度説明し、納得頂ければ連携して対応している。この1年間に、99歳の方の看取りを行った。看取りに関する研修は特に行っていないが、経験ある職員と一緒に実践から学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルは作成し一部貼付して周知している。(他はファイリング)また、看護師に有事の際の対応の仕方や応急手当などの指導も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害において、昼夜それぞれの想定の下、マニュアルに沿った避難訓練を年に消防を含め2回実施している。また、会社として年1回防災備品の補充点検・確認を行っている。消防や防災機器の会社との協力体制や指定の避難場所への確認・協力依頼も行っている。	9月に防災点検事業者と一緒に避難訓練を実施した。緊急連絡網や緊急手順マニュアルがあり、訓練ではマニュアル通りで行えた。飲料水や食料を、併設の通所介護施設に4日分備蓄している。防災機器の会社との協力体制があり、近隣住民には災害時の協力を声掛けしている。地域の避難場所の学校が、徒歩2分のところにある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所理念『尊重・安心・満足』を毎朝の申し送り時に唱和し、日々のケアに取り組んでいる。入居者様の性格や行動を把握して、不適切な言葉遣いに注意し、その方に合わせた生活が安心して継続できるよう対応している。	法人理念の遵守を重んじ、丁寧な言葉遣い、無理強いはいはしない、プライバシー配慮、呼名は原則苗字に「さん」付けなどを大切に、職員に違和感を感じるような言動があれば、本人とマンツーマンになれる空間で注意指導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を行う中で、固定した提案ではなく、利用者へ選択、発案してもらえるようケアに取り組み、介護者に話しかけてもらいやすい環境を意識し、利用者へ自己決定してもらえるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、全てにおいて入居者様の意思や思い・その時の状況を尊重し決定している。食事やおやつ・時間・入浴日・普段の役割など全てにおいて、お一人お一人のお気持ちに沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や衣服などはご自由に持ち込んで頂いている。その上で、着替えの際にご自身で選んで頂いている。お化粧をご自身で楽しまれる方やホットカーラーで髪をセットされる方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けを入居者様が分担して職員と一緒にやっている。配膳してから献立の内容を伝え季節の食材を楽しんで頂くようにしている。また「お楽しみメニュー」を企画し、献立や買い出し、調理を行い職員と共に楽しんで頂いている。	昼食は、併設の通所介護施設の厨房で作られており、盛り付けも工夫されている。朝夕の副食は、土井勝氏監修の美味しいクックチルド料理を使用し、朝はパン食、夕食のご飯とみそ汁は職員が手づくりしている。月1回お楽しみとして季節料理や利用者のリクエストを手作りしている。利用者も準備や片づけをできる範囲で行っている。天気の良い時は駐車場に椅子を置き、おやつを食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取に関する記録や送りで摂取量・バランス・水分量等のチェックを行うと共に、月に1回の体重測定の結果と照らし合わせ、適宜関係各所との連絡調整の下、量や形状・嗜好・アレルギー等を各人に合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行っており、ADLに合わせた介助の方法をとっている。水分をこまめに摂って頂くことで、口腔内の乾燥による臭いを予防している。月に一度の歯科往診では通常のケアで取り除きにくい部分等のフォローもしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握できている。オムツやリハパンを使用されている方も、日中は定時誘導でトイレに座って排泄の習慣が出来るように個々の状態に応じた自立支援に向けたサポートを実践できている。	入居者18名中、布パンツ使用の方が3名、リハビリパンツの方が14名、1日中パルーンの方が1名おられた。車いすの方も移乗時にしっかり立って頂くよう介助し、全ての方がトイレに座って排泄できるよう支援するなど、生活リハビリにも力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト等整腸作用のあるものを積極的に摂っていただいている。排泄表を用いた排便管理を行い、必要に応じて腹部マッサージ等も行っている。水分をこまめに摂っていただくことで、水分不足による便秘を防いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を原則週2回を設定している。当日のご本人の体調や気分等で入浴できない時は、時間や曜日の変更で、出来る限りの柔軟性をもって対応している。	お風呂は、月曜～土曜の午前中に1日3名ずつ入浴でき、週2回入ることができるよう支援している。入浴剤は使っていないが、ゆず等を頂くと使ったりする。2階の浴室の窓から見晴らしが良く、景色の話が弾んだり、歌をうたう方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、入居者様お一人おひとりの体力や生活習慣等を勘案し、昼寝の時間を設定したり、定期的に横になっていただく時間を設ける場合もある。夜間についても、同様に配慮・支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局の薬剤師の来設時(週に1回以上)の服薬に関する相談やアドバイスをいただく機会を設けている。また、薬情をファイリングすることで、誰でも薬について知ることができ、服薬介助時には2重3重の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまで生きてこられた中で培われた特技や趣味などを活かし、お一人おひとりに合った役割を持って過ごして頂いている。レクリエーション等でも偏らないよう、頭脳系・趣味系・運動系様々な物を取り揃え、気分転換図れるよう、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外食レクや買い物レクなどを企画し楽しんで頂いてきたがコロナ感染の影響で企画出来ていない。短時間の外気浴を含め、屋外に出る機会を増やした。緊急事態宣言解除になり、11月に入ってドライブレクを企画し車窓からの紅葉を楽しまれた。	コロナ禍でも、週1・2回近隣へ散歩に出かけている。また、天気が良いときは、敷地内駐車場で、おやつを楽しむこともある。先月11月は、ドライブして近くの紅葉を車の中から楽しみ、ドライブスルーでジュースばどを購入した。人がいないところでは、車から降りて景色を楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族が行っている。買物や外食レク等を企画した時は、社会的機能維持の一環として、ご自身で品を決める所から支払までして頂き、必要時のみサポートを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご希望があった際は、必要に応じて電話を取り次いでいる。手紙に関しても、レクの一環として書く機会を作ったり、ご本人の希望で書かれた際は、投函に関する支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の生活の中で、大きな環境の変化を与えないようホームの環境はほとんど変えていない。テレビの音量や、太陽光なども必要な程度に抑え、静かで穏やかな環境になるよう心がけている。塗り絵や書道の作品等も壁に飾ると大変喜ばれ嬉しそうに眺められている。	居間には、季節の変化を感じられる花々や手作りの季節飾りがなされている。調査した12月は、楽しいクリスマス飾りがなされていた。利用者の書道の作品が壁面に貼られており、家族は喜ばれ自慢げに話される利用者もいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、皆様思い思いに過ごされている。他者とのかかわりを持ちたいときは席を移られたり近場の方と談笑され、お一人になりたい時は、ソファや周りに誰も座っていらっしやらない席に移って頂いたり心配りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が大切にしてくられた家具や小物などを積極的に持ち込んで頂きながら、枕元や足元が危険にならないよう、配置や環境整備に気をつけている。	居室には、エアコン、カーテン、ベッド、クローゼットが備え付けられている。使い慣れた家具やテレビを持ち込み、お気に入りの写真や作品を飾って、思い思いの自室に演出されている。原則何でも持ち込み可能で、仏壇やコタツ等がある方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、皆様にご自由にお過ごし頂きやすいよう、バリアフリーで手すりをつけており、床材はすり足の方でも滑りにくい素材を使用している。狭くはあるが、その環境の中でそれぞれの力が活かせるよう、自立支援を心掛けている。		